

# 3月 「Die deutsche Nationalflagge」 アントニア・シュルト

1.国際交流員の業務の一環として学校に訪問し、ドイツについての話しをしますが、最近ではコロナ拡大のため、ドイツの紹介をする機会があまりなかったです。ドイツの紹介をする時は、一般的には人口、面積、通貨といった情報をもとに、国の様子を面白く、分かりやすくしています。クイズ形式の授業だと、特に低学年の児童が喜んで、積極的に参加してくれます。ドイツの食べ物や遊びなどに加え、興味や知識も以外に深い話題なのが、ドイツの国旗です。「ドイツの旗ってどっちですか」と尋ねたら、多くの一年生の児童がすぐ正しいのを大声出しながら、指差します。まあ、フランスの旗がフランスパンの袋に載っているから、「丸×理屈」を使って、ドイツの旗が分るのだろうと長い間思っていたが、フランスの旗の代わりにイタリアの旗にしても結果が変わりませんので、旗には小林市のほとんどの子供が興味を持っていると考えざるを得ない状況です。では、もう少しドイツの旗のお話ししましょう。



# 3月 「Die deutsche Nationalflagge」 アントニア・シュルト

2.まず、当たり前前のところから始めたいと思います。ちなみに、色です。調べたら、「ドイツの国旗は等間隔に分割された横縞の三色旗で上から黒・赤・黄の順で配置されています。」という説明が書いてありますが、ドイツ人である私には違和感を感じる場所があります。やはり、当たり前であるはずのところにも勘違いする恐れがあります。「黄色」ではなく、もっとも下の色は「金色」です。ドイツの国旗の色は「黒」、「赤」、「金」という三色として規定されており、ドイツでは国旗のことをよく「Deutschlandflagge」(ドイツの旗)や「Schwarz-Rot-Gold」(黒・赤・金)と呼ばれています。色の意味を調べたら、ところによって異なる説明が出てきて、正直に言うと、人はそういうことが好きなので、またはシンボルとしての力を高める目的で事後において追加されたのではないかと思います。





# 3月「Die deutsche Nationalflagge」 アントニア・シュルト

3.誕生した頃から、この三色は自由と統一の象徴とされているのは事実ですが、もう少しその歴史的な背景を見てみましょう。19世紀初め、ナポレオンの登場によってヨーロッパの勢力図は大きくその形を変えることとなりました。ナポレオンはドイツ諸邦とライン同盟を結ぶことにより多くの支配圏を得ました。フランスに抵抗した人々の中に、リュッツォウ少佐率いる義勇兵部隊がありました。そして彼らが着用していた軍服の生地（黒）、襟（赤）、ボタン（金）こそが、フランスの抑圧から民衆を救う象徴となったのでした。それがドイツ国旗のルーツともなりました。当日の義勇兵部隊はいろいろな兵士でない人からできていたため、同一の制服がないという問題を解決するように軍服の生地をすべて黒に染めたいのです。現在、文化とされている習慣などはよく昔の人の現実路線から生まれてきたような気がします。目の前のハードルを超えようとしたり、状況を少しでも改善しようとしたりすることで、今の世界に大きく影響を及ぼしてきました。今はコロナ感染症と取っ組み合っている時代ですが、次の世代にどう評価されるか、気になりますね。